

「愛知県その道の達人」派遣事業 実施報告書

達人 名	下垣 真希 先生 (心の歌の達人・日本の歌の達人)		所属	ソプラノ歌手、名城大学大学院非常勤講師
実施 校	設楽町立設楽中学校			
実施 日	平成21年10月26日(月曜日)			
実施学年・学級	2年(24人)			
教科等名	音楽	単元・題材名	心を開いて2年のハーモニーを	
授業の目標	達人の話や歌声を聴き、歌うことのすばらしさを学び、自分たちの合唱を改善するポイントを見付ける。			
授業の実際	<ol style="list-style-type: none"> 1 達人の紹介を聞く。(校長) 2 達人の歌唱を聴く。(達人) 日本の歌の良さを知る。 「ふるさと」の歌詞の解説と歌唱を聴く。 ドイツの歌の良さを知る。 「鱒」のメロディーの解説と歌唱を聴く。 3 生徒の合唱を発表する。(教師) 自由曲「南風」 課題曲「語りあおう」 <ご指導(達人)> ・リズム感がとても良い。 ・顔の表情をもっと豊かにしよう。使っていない顔の筋肉がある。 「い」を指で引っ張りながら、「う」をタコの口で。交互にやってみよう。 ・歌詞に込められた思いを前に飛ばそう。 ボールを持って、構えて投げるときに「ヤー」と声を出す。 そのイメージで声(歌詞)を遠くへ飛ばそう。 ・自分の好きな香りを想像して、「うーん」と。ここでひざを緩めて。 このイメージで空気をしっかり吸って、空洞の中でしっかり響かせよう。 4 達人からのメッセージを受け取る。(達人) ・「アメージンググレイス」の歌詞の意味を聞き、命の尊さと生きる喜びを感じながら歌唱を聴く。 5 お礼のことば(校長) 		 	
児童生徒の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・達人に教えていただき、声の出し方がかなり変わった。呼吸の仕方、顔の表情をどうすればよいか、とても分かりやすい練習方法だった。 ・達人の歌声はとてもきれいで感動した。特に最後の曲はすごかった。 ・こんな授業を受けるのは初めてで、とてもよい経験になった。 ・歌うときの気持ち次第で、ずいぶん歌声が変わる。どういう気持ちで歌うとよいかよく分かった。 			
教師の感想	<p>歌詞に込められた心を歌にすることの大切さを教えていただいた。未熟な合唱であったが、歌詞を伝えようとする強い気持ちを大切にした発声のトレーニングにより、見る見るうちに上達していく生徒の姿には驚いた。上手にほめていただき、生徒のモチベーションはさらに高まった。最後のアメージンググレイスは、命の尊さを強く印象付けてくださり、あっという間に終わってしまった。全校生徒に受けさせたい授業であった。</p>			